いわてのNPO・ボランティア活動情報誌 PIN(Paper Iwate NPO)

パイン

2019年6月発行
VOL.1 夏号

[表紙]いきいき元気健康づくり教室in宮古

6月6日、フラットピアみやこを会場に「運動」「食事」と「交流」を通じて、シニアの方の健康づくりを応援する教室が開催されました。

生活習慣病などの予防や筋力維持等について、ストレッチや脳トレなどの軽運動や食事バランスや減塩など実践しながら楽しく学びます。

今回は、家庭でも気軽に実践できる呼吸法や肩こり改善の体操と笑いいっぱいの脳トレじゃんけんで汗をかき、懐かしい「ほうの葉巻おふかし」を中心とした郷土料理を作ってみんなで試食しました。

健康教室は、地域の皆さんとNPO法人エムジョイ、岩手県栄養士会宮古支部が協力して年4回開催します。

[特集]つながる・地域の元気「沿岸編」 …2-3
NPO法人 アラマキ
釜石市甲子地区活性化協議会
岩手県からのお知らせ …… 4
岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターからのお知らせ…… 5
NPO活動交流センターからのお知らせ …… 6
助成金情報 …… 7
あなたのまちの市民活動支援のみなもと
NPO法人陸前高田まちづくり協働センター …… 8

NPO法人 アラマキ

新たな「まき」を作って地域の力に

特集 つながる・地域の元気「沿岸編」

2019年度、パインの特集は「つながる・地域の元気」です。沿岸・県北・県南・県央の各地域から、昨年度に引き続きNPO法人と地域コミュニティ、ボランティア団体の地域に根ざした活動とその想いを伝えていきます。夏号は沿岸地域で活動する団体です。アラマキは食材付き情報誌の発行等で魅力を発信するNPO法人。釜石市甲子地区活性化協議会は地区内で親しまれてきた甲子柿を活用して、地区のファンを増やす活動をしています。最終面では「陸前高田まちづくり協働センター」を紹介します。

海藻を食べるウニの駆除を行う（アラマキ提供）

豊富な海の幸、山の幸に恵まれる大槌町。「大槌食べる通信」はそんな大槌町の魅力を食材付きで全国にお届けする情報誌だ。発行しているのは大槌町を拠点に三陸で活動するNPO法人アラマキ。編集長は法人の副代表、吉野和也さんだ。法人名の由来を伺うと、新巻鮭発祥の地という他にも、新たな「まき」（血縁、一族といった方言）をつくりたいという意味が込められているとのこと。

震災後、訪れた人が被災地を第二の故郷と言い、まきのようになって復興に協力してくれた。地域外の人を地域の力、地域を変える力にすることがこれからも大切だと、法人名を決めた。

地域と人をつなぐ活動を行う

「大槌食べる通信」は2019年春号から「三陸食べる通信」として、より広い地域の魅力を届ける。年に4回発行され、現在、取材や編集を吉野さんが一人で行っている。届ける食材には、地元の人が意外と知らないものもあるというが、誌面ではその食材について生産者の想いやストーリーを詳細に伝える。大槌の魅力を伝え、仲間の輪を広げていく事を目的に発行する。法人名の由来の通り、まきを作る情報誌だ。

大槌食べる通信

また、アラマキは、ウニを駆除する活動も行っている。小魚の住処や産卵場所になりアワビの餌になる海藻。その海藻を食べてしまうウニを海に潜って獲るのだそうだ。現在は陸前高田市の広田湾漁協と連携して活動しており、今後はレジャーダイビングの一環としてプログラム化を目指している。実現すれば日本初の取り組みである。

次の世代へ示していく

吉野さんは、「やりたいことしかやっていないんです。」と笑いながら話す。自分のやりたいことと、地域への波及効果が合わさった場合に実行に移している。「お金が回るモデルになれば人が雇え、仲間も増える。次にやりたいことも見えてくる。」と語った。活動の根底にあるのは一つの目標だ。「人生は自分次第で変えられることを伝えたい。」吉野さん自身は千葉県出身で、恵まれた境遇の家庭ではなかったという。被災者に寄り添いたいと東京から大槌へと移住。「大槌食べる通信」創刊のため、2016年NPO法人アラマキを立ち上げた。自分の生き方を次の世代へのギフトにしたいと、新たな活動へ挑戦を続けている。

吉野和也副代表

釜石市甲子地区活性化協議会

地区内で親しまれる甲子柿で地域の魅力を伝える

燻されて真っ赤になった甲子柿（協議会提供）

真っ赤な実がまるでトマトのようにも見える甲子柿は、釜石市甲子（かっし）地区の特産品だ。収穫した渋柿を1週間燻すと色は赤くなり、独特の食感と甘みになる。味や見た目の変化だけではなく、栄養価も高くなるのだそうだ。釜石市街を横断する甲子川沿いにある甲子地区では、他には無い特産品を活かして地域を盛り上げようと活動している。甲子地区活性化協議会会長の藤井サヱ子さんにお話しを伺った。

地域を盛り上げるために協議会を設立

藤井さんは2000年に盛岡から両親の介護のため釜石へ帰郷。協議会設立以前から田んぼ跡地でのコスモスの緑化活動等で、釜石を元気にしようと活動していたそうだ。協議会の設立は2015年4月。国から3年間の助成金をもらい、甲子柿で地域を盛り上げようと声をかけあった。協議会を構成するのは、生産者組合、加工団体、NPO法人、道の駅や釜石市及び沿岸広域振興局など多様な団体だ。また、パーシモンズ（英語で柿を意味する）という東京の若者たちで構成する団体もある。この団体は、甲子地域を訪れ、ファンになった若者が参加しているのだという。現在協議会は、できる範囲で工夫しながらの活動を続けているとのこと。

まずは自分たちの地域に魅力を伝える

現在の協議会の活動は、主に販売会や県内外のイベントへの参加、秋祭りの開催等だ。甲子柿を軸に地区の魅力を伝える活動をしている。とはいえ、まだ甲子柿を知らない、食べたことがないという地元の子どもたちもいるそうだ。「まずは地域に魅力を伝えることが大事だと思います。」と藤井さん。地域の中でしっかり出来ていないことは、外に向けて発信できないと語る。自分たちが暮らす場所を知ってもらうため、住民参加のまち歩きツアーも開催した。甲子中学校の生徒に向けては、座学や柿もぎ体験も行っている。

秋には、釜石鵜住居復興スタジアムでラグビーワールドカップの試合もある。今後の展望について伺うと、甲子地区の魅力を地区内外に知ってもらい、釜石全体を盛り上げたいとのこと。技術の進歩により甲子柿の加工品も増えている。通年で味わえる甲子地区の特産品、釜石市の特産品として今後も魅力を発信していく。

藤井サヱ子会長

中学生の柿磨き体験（協議会提供）

◎甲子柿

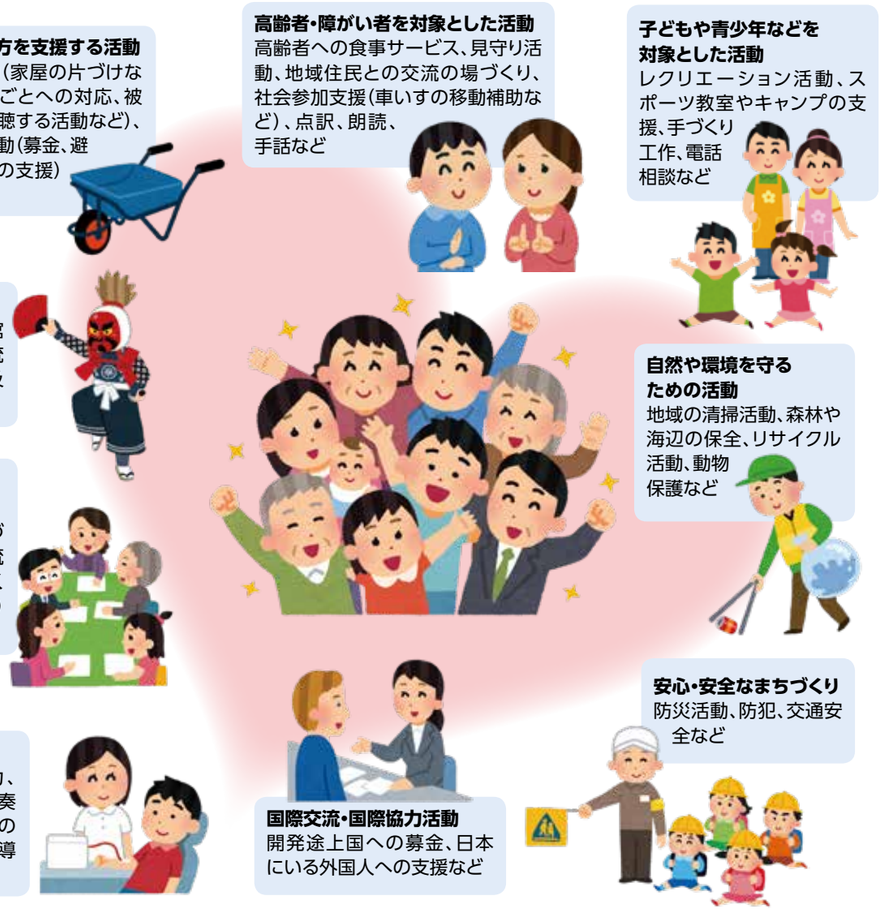
釜石市内でも、甲子地区でしか作られていない。収穫した渋柿を磨き、柿室（かきむろ）（石造りの小屋）で1週間燻すことで、非常に甘くなりゼリーのような柔らかな食感となる。美味しく食べられるのが柿室から出して4、5日程のため、地区内でのみ食べられていたものだという。現在は瞬間冷凍により美味しさをそのままに冷凍した柿や、ドレッシングやジェラート等の様々な加工品が開発されている。

シリーズ ボランティアをはじめる虎の巻①
～ボランティアって何?どんな活動があるの?～

★ボランティアとは?

ボランティアは、自分の関心のあるテーマ、自分にできることからはじめられるとても身近な活動です。
地域や社会をよりよくしていくことに役立つとともに、活動する自分自身も豊かになれるパワーを持っています。
感動、喜び、充実感、達成感、知識、技術、人とのつながりなど…さまざまなことが得られることが魅力です。

★どんなボランティア活動があるの? さまざまなボランティア活動の一例をご紹介します。



災害で被災した方を支援する活動
被災地での活動(家屋の片づけなど被災者の困りごとへの対応、被災者の思いを傾聴する活動など)、被災地外での活動(募金、避難している方への支援)など

高齢者・障がい者を対象とした活動
高齢者への食事サービス、見守り活動、地域住民との交流の場づくり、社会参加支援(車いすの移動補助など)、点訳、朗読、手話など

子どもや青少年などを対象とした活動
レクリエーション活動、スポーツ教室やキャンプの支援、手づくり工作、電話相談など

芸術・文化
美術館や博物館での活動、伝統文化の継承・普及など

自然や環境を守るための活動
地域の清掃活動、森林や海辺の保全、リサイクル活動、動物保護など

各種イベント等の運営スタッフ
スポーツ、まちづくり、地域の交流の場、居場所づくり(サロン活動)への支援など

安心・安全なまちづくり
防災活動、防犯、交通安全など

その他
献血への協力、募金活動、演奏活動、パソコンの設定や操作指導など

国際交流・国際協力活動
開発途上国への募金、日本にいる外国人への支援など

★すぐに取り組める!あなたの住む地域にもある身近なボランティア活動

岩手県内各地で、子どもから大人まで誰でも参加できるボランティア活動を集めました。詳しくは、「ボランティア体験inいわて」で検索

ボランティア体験inいわて　検索

「ボランティア体験inいわて」では、主に高齢者、障がい者、子ども、各種イベントなどに関するボランティアをご紹介しています。
【心と心でつながるよろこび 2019ボランティア体験inいわて】
http://iwate-volunteer.jp/0504experi/index.html

【お問合せ先】
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483
FAX:019-637-7592
「ずっぱりボランティアいわて」
URL:
http://iwate-volunteer.jp/

独自ボランティア「いわて・かまいしラグビー応援団」活動グループ募集中

いよいよ今年9月から開催されるラグビーワールドカップ2019™日本大会。
ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会では、大会に向け、地域の盛り上げ・おもてなしなどに取り組む岩手・釜石独自のボランティアグループを募集中です。

① 募集期間
令和元年 (2019年) 11月2日 (大会最終日) まで

② 応募資格
- 年齢や居住地などを問わず、どなたでも参加可能
- ２人以上のグループ単位での応募

③ 対象となる活動
- 選手及び国内外からの観光客等への “おもてなし” に関する活動
- 大会の機運醸成に関する活動
- 地域美化及び環境整備に寄与する活動 など自由な発想による幅広い活動を対象とします。

④ 応募方法
グループ単位で応募申込書 (釜石市HP参照) によりメール、FAX又は郵送でお申し込みください。

～実行委員会からの支援～
- 活動状況を、実行委員会及び釜石市のHPやSNS等で紹介
- 活動用グッズ(横断幕・シール・のぼり・ガイドブック等)の貸出・提供 など

活動の様子

【応募申込先・お問い合わせ先】
釜石市ラグビーワールドカップ2019 推進本部事務局
〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22-1シープラザ釜石内
電話:0193-22-8420　FAX:0193-31-1170
E-mail:takahashi2171@city.kamaishi.iwate.jp

http://www.city.kamaishi.iwate.jp/shisei_joho/shokai/rugby_city/detail/1222240_3208.html (釜石市HP)

特定非営利活動法人 盛岡ユースセンター(平成31年3月認定NPO法人取得)

活動内容:「学校」で君の世界は決まらない。一人ひとりと生き方を一緒に考えるフリースクールを目指しています。
代 表 者:理事長 又川 俊三　**住所:**盛岡市大通三丁目1-23クリエイトビル3
TEL:019-681-7070　FAX:019-681-7071

認定NPO法人桜ライン311(令和元年5月更新)

活動内容:東日本大震災で発生した津波の最大到達地点に桜を植樹し、津波の記憶を伝え残す活動をしています。(※2019年5月末時点1,577本植樹)
代 表 者:理事長　岡本 翔馬
住　　所:陸前高田市高田町大隅93-1 高田大隅つどいの丘商店街12号
TEL:0192-47-3399(FAX同じ)

認定NPOきたかみ市民活動基金(平成31年3月更新)

活動内容:市民活動基金を創設し、市民活動団体の支援を通して豊かな市民社会に創造に寄与することを目的に活動しています。
代 表 者:理事長　八重樫 敏
住　　所:北上市大通り1丁目3-1 おでんせプラザぐろーぶ4階
TEL:0197-61-5035　FAX:0197-61-5036

助成金情報

これから申請できる助成金情報です。
詳細については、実施団体に直接連絡するかホームページをご確認ください。

社会福祉事業自動車購入費助成（東日本地区）［支援団体/（公財）損保ジャパン日本興亜福祉財団］

対象団体／下記の①～③のすべてを満たしている団体が対象です。
①募集地域　東日本地区に所在する団体
②助成対象者　特定非営利活動法人
③助成対象の活動　主として障害者の福祉活動を行う団体
※ただし、加齢に伴う障害者（高齢者）の福祉活動団体は除きます。
助成内容／自動車購入費

●申込期限／令和元年7月12日（金）17時まで　●助成金額／1件120万円まで（総額1,200万円）
●参考URL／https://www.sjnkwf.org/jyosei/jidousya.html

特定活動助成「自然災害支援プログラム」［支援団体/（公財）ユニベール財団］

対象団体／特に次の①または②に該当する団体を助成対象とします。
①被災地でこころのケアのための“傾聴ボランティア”として活動をしている団体
②被災地から県外に避難を余儀なくされた方々を対象に、こころのケアのための“傾聴ボランティア”として活動をしている団体
ただし、次の二つの条件を満たす団体を対象とします。
ⅰ）応募に際して、地元社会福祉協議会の推薦を得ること。
ⅱ）団体として、既に一年以上の活動実績があること。

●申込期限／令和元年7月31日（水）17時まで　●助成金額／50万円を上限
●参考URL／https://www.univers.or.jp/index.php?civilactgrant

公益財団法人日野自動車グリーンファンド助成事業［支援団体/（公財）日野自動車グリーンファンド］

対象団体／自然環境保全に係わる活動・研究を行う団体・グループ等
①活動の基盤が日本国内であること。
②日本語での応募であること。
③団体については、原則として設立2年以上を経過しており、活動実績のあること。
④同一団体への同じテーマでの助成は、原則として累計3回までとする。
対象事業／①自然環境保全に資する樹木や草花の植栽の実施
②自然環境保全活動の実施
③自然環境保全に資する調査や研究の実施
④自然環境保全に資する教育や諸啓発活動の実施

●申込期限／令和元年7月31日（水）※当日消印有効　●助成金額／総額900万円
●参考URL／https://www.hino.co.jp/corp/news/2019/20190515-002333.html

Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs（国内助成）［支援団体/パナソニック株式会社］

対象団体／日本国内の貧困の解消、または貧困と関連のある問題の解消に向けて取り組むNPO
対象事業／●組織診断からはじめるコース
1年目に組織診断によって組織の優先課題と解決の方向性を明らかにした上で組織基盤強化計画を立案し、2年目以降に組織課題の解決や組織運営の改善に取り組むコース
●組織基盤強化コース
既に組織の優先課題と解決の方向性が明らかとなっており、立案した組織基盤強化計画に基づいて、1年目から具体の組織課題の解決や組織運営の改善に取り組むコース

●申込期限／令和元年7月31日（水）※必着
●助成金額／「組織診断からはじめるコース」1団体への上限100万円（1年目）
「組織基盤強化コース」　1団体への上限200万円（毎年）
●参考URL／https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/npo_summary/2019_recruit.html

社会福祉助成事業［支援団体/一般財団法人 松翁会］

対象団体／原則として法人・団体であること。法人格をもたないものであっても、特に助成することにより効果が期待できる場合は対象とします。但し、個人および営利法人等は対象外とします。
対象事業／①障がい者の福祉向上案件、および難病案件、虐待防止案件を対象とする。
②明確な企画（目的、内容、資金使途等）に基づく事業で具体的な計画を持つこと。
③推進体制が確立しており、自己資金の調達の努力をしていること。
④先駆的、開拓的事業を優先する。
⑤助成対象にならないもの
・過去3年間に松翁会から助成を受けた法人・団体からの申請
・研究助成
・法人・団体の管理運営維持に関する経費（日常業務にかかる人件費、家賃などの経常資金、定例化したセミナーなどの開催費用等）

●申込期限／令和元年7月31日（水）※必着
●助成金額／原則として60万円を限度（応募最低額10万円）
●参考URL／https://shouohkai.or.jp/zaidanhojin_shououkai/business/

知っていますか? SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)

「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で全会一致で決められた、国際社会共通の目標です。私たちNPO等の活動の一つひとつが、SDGsの達成に繋がります。

2030年までに達成すべき17の目標

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「2030年までに世界をもっとよくするための目標」です。カラフルなロゴとともに目標（17）とそれらを達成するための具体的なターゲット（169）から構成されています。「Development」を「開発」と訳してしまっているので、途上国を思い浮かべる方が多いかもしれません。日本国内の課題に取り組む多くのNPOにとっては「遠い存在」になってしまっているのが現状だと思います。しかし、SDGsは途上国だけではなく、日本を含む先進国に当てはまる課題も含まれています。こうした意味では、「開発」ではなく、むしろ「発展」「発達」と訳したほうが適切なのかもしれません。つまりSDGs とは、2030年までに17の目標と169のターゲットを達成しよう（一部のターゲットは2020年や2025年になっています）ということです。

17の目標だけではなく、169のターゲットを眺めることで、実は今取り組んでいる活動や事業との関わりもわかりやすくなると思います。

その目標はあまりにも壮大で、実現するには世界が力を合わせることが非常に大事です。とても、一個人が関わることのできる話ではないような気がするかもしれません。

あなたは、ただ諦めますか?
⇒とんでもないです!
変化はひとりから始まります。

詳しくはこちらをご覧ください。
一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク　https://www.sdgs-japan.net/

N活の講座・NPOなんでもサロンの開催

毎回、テーマを設定して開催しています。関心のある方はどなたでも参加できます。お気軽にお申し込み下さい。

NPO基礎講座
■日時　7月10日（水）「NPO法人設立・申請の方法」／9月11日（水）「理事・監事・事務局の役割」
いずれも　①14:00～15:30　②19:00～20:30

NPOなんでもサロン
■日時　7月 24日（水）「NPO活動のススメ！」／8月21日（水）「団体広報のコツ!」
9月25日（水）「チラシ作成のコツ！」　いずれも①14:00～15:30　②19:00～20:30

（両講座共通）
■場所　アイーナ6F　団体活動室1AB　■定員　各回 5名　※終了後、個別相談会あり
■講師　①久保NPO専門員　②岩見副センター長
※内容・講師の変更がある場合があります。ご了承願います。
■申込・問い合わせ先　NPO活動交流センター　TEL:019-606-1760　メール:n-katsu@aiina.jp

NPO活動交流センターの受託団体が変わりました。
この4月から、いわてソーシャルセクター協議会（構成団体:NPO法人いわてNPOフォーラム21、NPO法人いわて連携復興センター）が、業務を受託して取り組んでいます。利用や相談、各種講座など変わりなく実施していますので是非ご活用ください。

あなたのまちの市民活動支援のみなもと

NPO法人陸前高田まちづくり協働センター

DATA…
窓口：月～金 10:00～17:00
問い合わせ
TEL：0192-47-4776
メール：rtkyodo@gmail.com
〒029-2205 陸前高田市高田町字荒町３３番地 陸前高田市チャレンジショップC－２

ホームページ　https://rtmachikyodo.jimdo.com/

住民が主役 〝復興そして未来へ〟

東日本大震災発災後の２０１２年に、「復興まちづくりには市民の力が欠かせない。」と、市民が主体となった復興まちづくりの実現を協働で推進するための拠点として、一関市にあるＮＰＯ法人レスパイトハウス・ハンズの支援の下、事業所を開設した。地域の現状を把握し、どのような支援が必要なのか…手探りでスタートした支援活動は、民設民営の支援センターとしての市民活動、地域活動の支援となった。特に、地域コミュニティの再構築に向けた話し合いの支援など、住民の皆さんが地域課題を解決するための仕組みや復興に向けた活動の相談対応に力を入れている。

人材は人財

法人の理事長三浦まり江さん（写真）は「当センターは、『住民が主役となって活躍している地域をつくる』を合言葉に掲げています。地域づくりの旗振り役となる人材の発掘・育成を目的とした講座（まちづくりコーディネーター育成講座）を通じた人材育成がこれからの鍵です。」と話す。

また、住民が自分たちの地域の将来を考え、できることから実行する地域づくりワークショップ（市民会議）を開催し、住民一人ひとりが地域に積極的に関わる場づくり、ＮＰＯ同士のネットワークづくり等に取り組んでいる。これまでの地道な活動が実を結び、２０１７年からは陸前高田市から委託を受けて、地域で高齢者を支え合う体制の構築と支え合い活動の推進に向けたコーディネートにも取り組んでいる。

「活動を通じて出会った皆さんの『どうなりたいのか』『何をやりたいのか』という想いを引き出し、その実現に向けて一緒に頭を悩ませ、一緒に取り組むことを大事にしている。」と三浦さんは話す。少子高齢化の社会であり、今まで通りの活動・事業は難しくなっていく中、「今よりちょっと未来を意識しながら、時代や社会にあった地域の仕組みを考え、話し合いを積み重ねながら、みんなが納得する形をみんなでつくりだしていきたい。」

三浦さんが描く未来では、多くの住民が主役となって活躍している。

編集後記

今年度の特集では昨年度に引き続き、県内でＮＰＯ活動を行う団体を紹介します。地域でどのような活動をしている団体があるのか、少しでも興味を持っていただけると幸いです。今号は沿岸から。雄大な海や山に囲まれ、豊富な食材がどっさりあります。紹介した団体はどちらも「食」から地域を発信する活動をしていました。なかなか食べる事が出来ないその地域の「食」。非常に魅力的です。次号は県北地域の団体を紹介します。（H・M）

NPO活動交流センターのHPでは、様々なイベント情報や助成金情報を掲載しています。
みなさまからの市民活動情報や「パイン」への取材依頼もお寄せください。
URL：http://www.aiinanpo.org/　E-mail：n-katsu@aiina.jp

アイーナ　N活　検索

Twitter フォローお願いします!!!
https://twitter.com/aiinaNPO
Facebook いいねお願いします!!!
https://www.facebook.com/aiinaNPO

令和元年6月30日発行　発行／NPO活動交流センター　〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 いわて県民情報交流センター「アイーナ」6F　TEL：019-606-1760　FAX：019-606-1765
※パイン（PIN）は、年4回、各5000部を発行しています。1部あたりの単価は59.2円（通信費を除く）です。